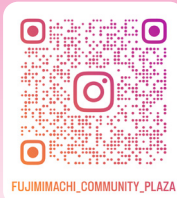




公民館
Instagram



FUJIMIMACHI_COMMUNITY_PLAZA

〒399-0211

長野県諏訪郡富士見町富士見 3597-1

コミュニティ・プラザ内 富士見町公民館

ホームページ：https://www.town.fujimi.lg.jp/site/kouminkan/

Eメール：kouminkan@town.fujimi.lg.jp

発行 富士見町公民館

編集 公民館報編集委員会

TEL 0266(62)7900

FAX 0266(62)7611

コミ・プラ マスコットキャラクター
「ホッホ君」



改訂版
「郷土のあゆみ」

瀬沢は賑やかな村だった



国道から降りる瀬沢集落



高原晴雨

秋から冬に向けての気温の移行が、近年の中でも殊にすんなりいかない今年の10月であった。人間はかなり戸惑っているが、常に季節の移ろいを知らせてくれる動植物たちはどうなっているのだろう。

周囲の環境に秋の兆しが現れたら、自然の中にいる生物は命を次に繋げる準備に入ったり、冬眠に向けて体内で調整がはじまる頃だ。それなのに、こんなに季節外れの変な暖かさが続いているのだ。人間の暮らしにはどんな影響が出てくるのか。そんな不安に対して何かしたいだけなのかもしれないが、今年の私は、「このまま放っておくとそこで死ぬだろうな」という危険な状況の虫やカエルにより一層注意を払い、せっせと助けている。まもなく死を迎えたり、越冬するために冬支度を始める生き物が、なるべく人間がらみの事故や不運に合わずに寿命を全うして欲しい、というような感じで。

けれども、そもそも我が家の仕事は温室で植物を育てることなので、いわゆる害虫が発生すると農薬散布で被害を抑える。さらには何台もある送風機の羽が回転しているので、オニヤンマなどが不幸にも裏側から吸い込まれたりするし、ハウス側面の溝やビニールカーテンの片隅では前と横にしか移動できない蝶やトンボがたくさん命を落としている。施設園芸の温室では、犠牲となる生き物が沢山いるのだ。

おまけにもうひとつ、いまだに時々思い出すことがある。かつて、小学校低学年の私は誕生日プレゼントに昆虫図鑑を買ってもらった。どの虫好きだったのだが、公園でひたすらアリの踏み続けていたことがある。子ども時代によくある思い出だ。どんな心境でそうしていたのか覚えていないが、自分の中ではまだ生きていた記憶である。

こうして浮かんだことを書き連ねてみれば、こちらの都合で駆除しては良心を痛め、助けてはその気持ちを引き上げてみただけなのに気づいてしまった。それでも、かつて経験したことのない地球規模の変化に乗り合わせた、今に生きる生き物同士、手を携え肩を組んで共に乗り越えていきたい。

岩田 良子

目次 P2~3 【特集】
P4 図書館・博物館コーナー

西山の里(瀬沢)

国道20号線を南に向かうと鳶木宿の手前で釜無川に出会いますが、この釜無溪谷は山梨県との県境になります。この釜無川の北側に先能と瀬沢の小さな集落があり、村の中を旧甲州街道が通っています。この街道を北西方向へ進めばとちの木、横吹、休戸、花場などの集落へと続きますが、明治時代までの瀬沢はこの地域では中心となる賑やかな集落でした。

瀬沢区には、沢山の古文書など歴史上貴重な資料が郷倉に保存されており、研究者が時々訪れるという。

昭和25年当時の区役員は落合村史編纂委員であった久保美郷氏に委嘱して村の歴史をまとめることにした。そして昭和33年「郷土のあゆみ」が発刊された。この本は平成21年に改編されたが、戦国時代からの古文書を解読したもので興味深い内容が記されている。

瀬沢合戦の碑

この地域は信州諏訪と甲斐との境にあるため、諏訪勢と武田勢とで領土拡大を目指して時々争いがあった。

天文11(1542)年、瀬沢でも諏訪

頼重等四武将の連合軍と武田晴信(信玄)がこの地で戦い、千六百余人もの戦死者を出した。その屍を埋めるため9つの大きな穴を掘り埋めたという「九つ塚」が横吹区にある。この塚はその後武智川の大洪水により流出し、現在は一つの塚だけが残っている。武智川は、昔多くの兵士が殺されて川が血で染まったことから「武血川」とも書かれた。他に血河原という場所もある。昭和13年、区の老人会が中心になって、国道沿いに古戦場石碑を建立した。

高島藩からの御触書(江戸時代)

瀬沢の郷倉には多くの古文書や当時の地図などが保存されている。その中には高島藩から村の名主宛に届いた、宝暦8(1758)年以降の107冊もの御触書などが保存されている。その内容は、馬人足の割り当て、上納や調査の指令、俵約令、江戸幕府からの指名手配書などがある。



郷倉に整理の古文書



国道沿いにある、瀬沢合戦の碑

天保の大凶作には「粗服で我慢しろ。流行の風俗をしてはならない。元結の代わりにワラで縛れ」など当時を連想させる内容のものも残されている。

青年たちによる浄瑠璃

諏訪神社の前庭南端には「御調屋」と呼ばれる舞台がある。現在は、祭り前の準備作業などに使われているが、この建物は明治6年神楽殿として建築し、瀬沢学校としても使用された。

江戸時代末期から農村の青年たちの間では村芝居が流行し、大きな集落では舞台を建築した。瀬沢の舞台については「南諏稀にみる偉大なもの」との記録もある。明治13年頃の記録によると、「青年達は冬季間浄瑠璃を稽古し、発表の日は袴(かみしも)を付けて熱演した」とある。

現在も葛窪、栗生、立沢などには舞台が残っている。



舞台(左)と諏訪神社(右)

瀬沢公園

この舞台の前は瀬沢公園になっており、立派な石垣の上に広がっている。かつては尼さんが住んでいたという西照寺や江戸時代に建立された宝篋印塔

などの大きな石碑があり、集落を見下ろすことができる。

現存する諏訪神社は個人の寄進により、明治43年に新築落成されている。

甲州街道沿いであることから明治になっても旅館・料理屋が8軒もあった。

明治37年の瀬沢村配置図によると、民家94戸の内、純農業21戸、兼業農家



諏訪神社への参道



瀬沢公園内の西照寺と宝篋印塔



20戸、旅館4戸・料理屋4戸、職工業（鋸・竹細工など）14戸、物品販売業6戸などが記されている。写真の吉見屋は販売業を行っており、当時の看板などが残っている。



参道入口の吉見屋と旧甲州街道

病院の開設

明治17（1884）年、諏訪郡立高嶋病院落合分院が完成した。南諏では唯一の分院であり、医師が交代しながらも常駐していた。大正11年、郡制廃止とともに分院も閉鎖されたが、村では分院最後の医師であった和田氏に留任を願い、瀬沢医院として開設した。昭和28年まで35年間、地域住民の要望に酬いてきた。

和田医師が引退した翌年、その空き家を区内の大工は総動員で大改造し、公民館を建設した。現在の公民館（写真）は昭和50年に新築している。



瀬沢村の学校

瀬沢村には江戸時代から本格的な学問所「弘教舎」があった。天明8（1788）年の「学問所範式」（規約）を定めた文書が残されている。

明治6年1月「静修学校」を養福院に設置した。同年「瀬沢学校」と改称し、分校を木の間に設置している。

当時この学校では瀬沢の他に先能・横吹・花場・休戸・とちの木からの生徒96人が学んだ。

明治14年、手狭になったため「公立瀬沢学校増築伺」を提出。休戸、横吹など周辺地区から募金を集め増築した。

明治20年、落合学校が本校となったことで瀬沢学校は廃校となったが、この学校跡には「上諏訪区裁判所落合登記所」が設置され、地域の登記関係をとり扱うことになった。

郵便局

明治も後半になると経済活動の広域化により、信書や事務的な郵便物が増加してきた。それまで上葛木村のみ開設されていた郵便局であったが、明治35年、郵便取扱所として瀬沢と御射山神戸に新設された。大正4年には電信（電報）事務も開始され、茅野から瀬沢への電話線もひかれて翌年には電話事務も開始された。

交通事情

江戸時代までの交通は馬や籠を利用しての移動であったため、各集落には中馬（馬の背に荷物を乗せて運んだ運送業。甲斐や信濃に多かった）が活躍した。宝暦10（1760）年頃の記録によると瀬沢では43頭の馬が「中馬稼ぎ」として登録されている。明治になると人力車・馬車・荷車に変わったため道幅を拡張した。明治9年 太政官布告により甲州街道は国道（中仙道は国道に指定）となり、道路拡張の大修理が始まった。瀬沢の血河原から御射山神戸に向けて明治18年に開通した。

この道は昭和8年に国道に指定されたが、バイパス開設までは幹線道路の役割を果たしていた。

昭和36年 国道20号線のバイパスが建設され、瀬沢大橋の開通式が行われた。

中央線の開通による変化

明治37年12月21日、中央線が富士見まで開通したことにより、県道から駅への道路を作った。この中央線開通により人々の流れは甲州街道から富士見駅周辺へと変わってゆくことになった。当時の富士見駅周辺はまだ原野や松林であったが、駅ができたことで周辺には運送業、旅館、食堂など商売しようという人々の移住が始まり、3年間で40戸ほどになった。大正3年に

は瀬沢にあった落合登記所も駅前へと移転し富士見登記所と改称された。



バイパス建設と瀬沢区（昭和36年当時）

あとがき

人口減少傾向は止めることが難しく、集落によっては小学生がいらないという地区もあります。100年前の歴史を見るとそれぞれの集落は賑やかに活動していたことが分かりました。当時の様子を掘り起こすことも意義ある事かと思えます。限られた紙面です。ので十分な紹介となりましたが、瀬沢については新しい発見がありました。周辺地域の歴史を調べてみるのはいかがでしょうか

参考文献

- ・「郷土のあゆみ」（瀬沢区発行）
- ・富士見町史

「収蔵品展」

—富士見高原を訪れた文化人たちの足跡—

会期：11月1日(金)～12月27日(金)

高原のミュージアムは今年の11月に開館30周年を迎えました。これを記念して、収蔵庫に大切に保管されている中から選りすぐりの資料を展示します。



**図書館
博物館 コーナー**
☎62-7930 (図書館・博物館)

新着おすすめ Book

★電話・webまたはカウンターでご予約ください

エッセイ『私の最後の羊が死んだ』 河崎 秋子 著
酪農家の娘として生まれたが、農業に関わるつもりはなかった。だが、大学時代、美味しい羊肉に出会ってしまい「自分でも生産してみたい」との思いから一念発起してニュージーランドへ。様々な縁に助けられながらも、順調だった羊飼いの生活を、なぜやめる決断をしたのか。最初の羊を飼ってから、最後の一頭の出荷を見届けるまで、直木賞作家・河崎秋子「小説家前夜」の日々を綴ったエッセイ。

おはなし会(火曜日)

- 12月 3日 おふろのおはなし 午前11時～
- 10日 おかしのおはなし
- 17日 クリスマスカード工作
- 24日 ふゆのおはなし・誕生会
- 31日 年末年始休館日

おはなし会(土曜日) 「ふじみ子どもの本の会」ほか

- 12月 7日 かたちのおはなし 午前11時～
- 14日 今日のおはなしなあに？
- 21日 クリスマスおはなし会
- 28日 年末年始休館日

No.735 10月号の掲載文に誤りがありました。
下記のとおり訂正させていただくとともに、お詫び申し上げます。
(訂正箇所) P.2 4段目
(誤) 信濃境の井戸尻、田端の獅子の口
(正) 池袋の井戸尻、池袋の獅子の口

図書館

■開館時間/通 常・・・午前9時30分～午後6時
火曜日・・・午前9時30分～午後7時

■URL <https://www.town.fujimi.lg.jp/site/library1/>

白抜き・・・休館日 ★印・・・イベント実施日 □・・・20冊貸出

	日	月	火	水	木	金	土
12月	1	2	3	4	5	6	7
	8	9	10	11	12	13	14
	15	16	17	18	19	20	21
	22	23	24	25	26	27	28
	29	30	31				
1月				1	2	3	4
	5	6	7	8	9	10	11
	12	13	14	15	16	17	18
	19	20	21	22	23	24	25
	26	27	28	29	30	31	



富士見町図書館HP

図書館イベント情報

●12月21日(土) クリスマスおはなし会

時 間：午前11時～
会 場：コミュニティ・プラザ 大会議室
出 演：ふじみ子どもの本の会、
富士見町社会福祉協議会 他
※サンタさんがやってきます！



●1月5日(日) 新春企画

時 間：午前10時～
会 場：コミュニティ・プラザ ロビー
出 演：富士見太鼓保存会
問合せ：富士見町図書館 ☎62-7930



富士見高等学校 図書委員会の皆さんによる おはなし会

日 時：12月7日(土) 午後3時～
場 所：富士見町図書館内 おはなしのへや
オリジナル紙しばいと絵本の読み聞かせなど、楽しさ満載です！
※大人の方も是非お越しください

図書委員会の皆さんの
オススメ絵本も館内で
紹介しています。

12月13日(金)まで

- 場 所 富士見町高原のミュージアム(コミ・プラ2階)
- 開館時間 午前10時～午後5時(入館 午後4時30分まで)
- 休 館 日 月曜日(月曜が祝日の場合は翌日)、祝日の翌日(土日祝の場合は開館)、12月28日～1月4日

- 入館料 大人 300円、子ども150円
諏訪地域の小中学生は無料

⇒右の招待券を切り取ってお持ちください。
町内1家族まで無料にてご覧いただけます。

博物館企画展
優待券